

教育に関する事務の管理及び執行状況  
の点検及び評価報告書  
(令和6年度事務事業分)

令和7年11月

羽咋市教育委員会

## はじめに

平成18年12月の教育基本法の改正、平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月にいわゆる教育三法が改正されました。これを受け「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第26条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

また、第6次羽咋市総合計画（令和3年度～令和12年度）の基本理念「市民共同の誓いである市民憲章を基本理念とする」や、将来都市像「はぐくもう #はくいびと くらしてほっと きてほっと いざ！チャレンジ #HOT羽咋」に基づき、教育に関する基本目標を「歴史をつなぎ、文化を育む ひと・まちづくり」、「希望を持ち、助けあい、活躍できる ひと・まちづくり」、「学びと安心を高め合う ひと・まちづくり」の三本柱を教育の基本方針として取り組んで参りました。

これらを実現するため、教育委員会として、「(1) 歴史と文化の保存と継承、活用」「(2) 文化を育む環境づくり」「(3) 全世代活躍のまちづくりの推進」「(4) 学校教育の充実」「(5) 次世代を担う青少年の育成」「(6) 教養や生きがい、健康維持の土台づくり」の6つの基本施策を設定し、具体的施策として主要事業を展開することで具現化に努めてきました。令和6年度は、能登半島地震からの復旧復興等の課題にも取り組みながら、教育委員会と学校や地域が連携・協力し、学校教育の充実や地域コミュニティの維持、文化財の保存と周知に、より一層努めるとともに、事業内容の創意工夫に取り組んで参りました。

本報告は、「管理・点検及び評価」を評価委員3名のみなさまにお願いし公表することで、市民のみなさまに対し、行政の説明責任を果たすこと、教育行政に対する理解と信頼性の向上を図ること、質の高い教育を提供していくこと等を目的としています。

今後とも、教育委員会の施策に対し、深いご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月

羽咋市教育委員会

## 評価委員所見

令和6年度に羽咋市教育委員会が実施した活動や所管する事務に関する点検及び評価を行ったので、その結果を報告する。

点検及び評価は教育委員会事務局の3課2室（学校教育課、企画振興室、生涯学習課、スポーツ推進室、文化財課）が行った45事業について「令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート」の提出を受け、その趣旨、決算額・事業内容・実施状況等について事業担当課のヒアリングを実施し、各事業の内容や効果について確認、把握を行った。

事業分類は令和3年度からの第6次羽咋市総合計画に基づき、「歴史と文化の保存と継承、活用」「文化を育む環境づくり」「全世代活躍のまちづくりの推進」「学校教育の充実」「次世代を担う青少年の育成」「教養や生きがい、健康維持の土台づくり」と、基本施策を定め、それぞれが細分類化されている。

個別事業ごとの評価は、点検・評価シートの委員評価欄に記載したとおりであるが、ここでは点検・評価に当たったの所見を述べたい。

今回で16回目の評価となり、本報告では具体的な事業ごとに点検及び評価を行っており、その事業を行うことの目的・目標をしっかりと設定し、そのためにどのような取り組みを行うのかを明記している。しかし、事業の種類が多く、短期的に効果が見られるもの、一定期間を経ないと事業の真価が分からないものも見受けられる。

また、全事業について統一的に同一の形式により点検及び評価することの適切性や具体的事業の実施状況も勘案しながら、点検及び評価の在り方について再考する必要があると考える。

令和6年度は、能登半島地震による影響が危惧されたが、それぞれの計画に沿って事業の実施が行われた。今後もより効果的・効率的な事業を行うとともに、地域の特色を生かし、創意工夫をしながら、学力の維持向上と地域のウェルビーイングの実現にしっかりと取り組んでいただきたい。

最後に、教育委員会の様々な取組内容が容易にインターネットで見られるように、多様な情報提供がなされている。それをどのように保護者や地域の人々が情報を受け取り、どれだけ理解されているかを確認し、市民への広報の充実を図ってほしい。

以上、さらなる向上を目指して、羽咋市ならではの教育活動がますます発展と充実されることを期待する。

令和7年11月20日

評価委員一同

# 目 次

## I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について . . . . .	1
2 羽咋市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
(1) 点検及び評価の目的 . . . . .	1
(2) 点検及び評価の対象 . . . . .	1
(3) 点検及び評価の実施方法 . . . . .	2
(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用について . . . . .	2

## II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会委員名簿 . . . . .	4
2 教育委員会の開催状況 . . . . .	4
3 その他の主な活動 . . . . .	5

## III 点検・評価の結果

1 第6次羽咋市総合計画 基本計画における施策体系 . . . . .	6
2 事務事業の点検・評価の概要	
(1) 歴史と文化の保存と継承、活用 . . . . .	7
(2) 文化を育む環境づくり . . . . .	9
(3) 全世代活躍のまちづくりの推進 . . . . .	10
(4) 学校教育の充実 . . . . .	11
(5) 次世代を担う青少年の育成 . . . . .	16
(6) 教養や生きがい、健康維持の土台づくり . . . . .	17

## I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

### 1. 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成18年12月の教育基本法の改正と平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地方行政法」という。）が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法第26条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2. 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

羽咋市教育委員会では、地方行政法の規定に沿って、令和6年度中における事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行います。

#### （1）点検及び評価の目的

点検及び評価は、住民に対する行政の説明責任を果たすことによって教育行政に対する市民の理解と信頼性の向上を図るとともに、今後重点化を図らなければならない分野を明確にすることによって、市民が求める質の高い教育を提供していくことを目的としています。

#### （2）点検及び評価の対象

##### ① 対象期間

令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日）

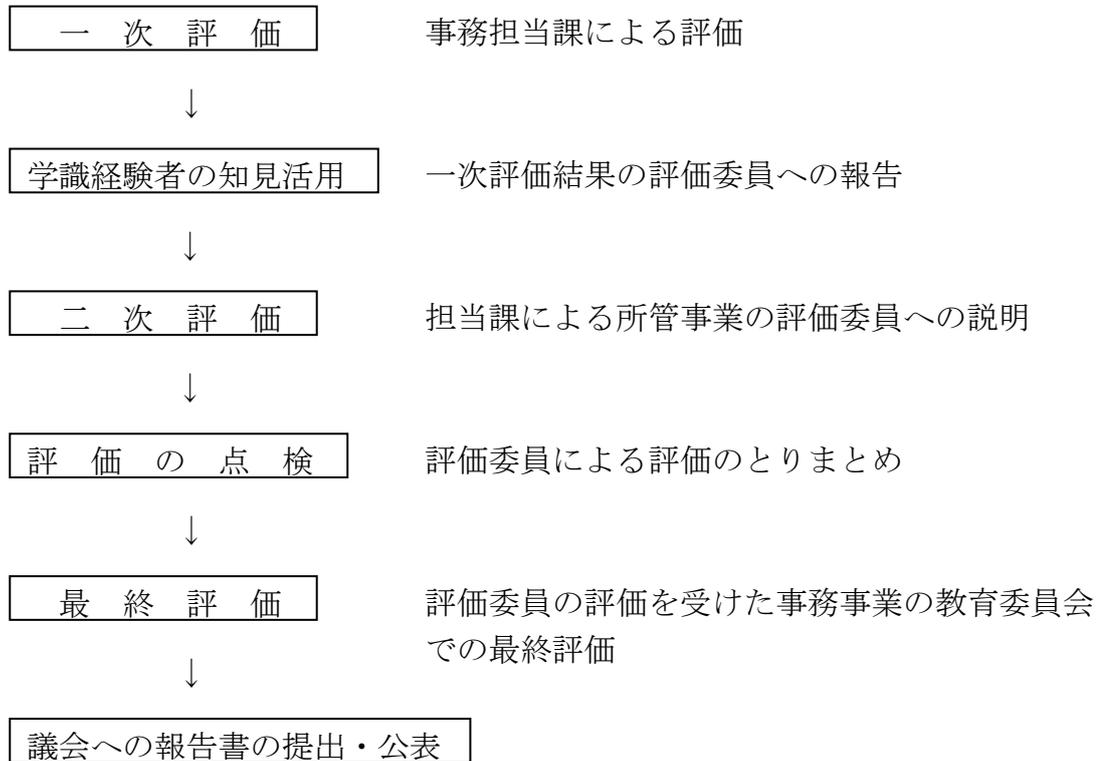
② 対象事務

地方行政法に規定されている教育委員会の権限に属する事務（市長部局において補助執行している事務を含む。）及び市長の権限に属する事務のうち教育委員会事務局において補助執行している事務

(3) 点検及び評価の実施方法

令和3年3月に策定された「第6次羽咋市総合計画」（令和3年度～令和12年度）に掲げる基本目標に基づき「1 歴史と文化の保存と継承、活用」、「2 文化を育む環境づくり」、「3 全世代活躍のまちづくりの推進」、「4 学校教育の充実」、「5 次世代を担う青少年の育成」、「6 教養や生きがい健康維持の土台づくり」の6つの基本施策に伴う事務事業ごとに、令和5年度中の活動状況を点検し、これを評価する方法により実施します。

点検評価の手順は、次のとおりです。



(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用について

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方々から評価を受けるため、「評価委員会」を設置し、委員から評価をいただきました。委員は次の方々です。

- |         |    |     |
|---------|----|-----|
| ・元小中学校長 | 2名 |     |
| ・元市課長   | 1名 | 計3名 |

## 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和年法律第162号。以下「法」という。）第26条の規定に基づき、羽咋市教育委員会（以下「委員会」という。）が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

### (点検及び評価の対象)

第2条 点検及び評価の対象は、法第21条各号の規定に基づき委員会の権限に属する事務として処理する事務事業とする。

### (点検及び評価の内容)

第3条 点検及び評価は、前年度の事務事業の進捗状況を総括するとともに、今後の課題や今後の取り組みの方向性を示すものとする。

### (評価委員の設置)

第4条 委員会は、点検及び評価の実施にあたり、教育に関し学識経験を有する者を評価委員とし、その知見の活用を図る。

2 評価委員は、教育に関し学識経験を有する者の中から3名を選任し、委員会が委嘱する。

3 評価委員の任期は3年とする。

4 評価委員の報酬及び費用弁償は、特別職の職員で非常勤のものものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和49年3月27日条例第2号）の定めるところによる。

### (点検及び評価の実施)

第5条 委員会は、毎年度、前年度の対象事務の進捗状況を取りまとめ、評価委員の意見を徴収した上で、点検及び評価を実施する。

### (報告等)

第6条 委員会は、前条の点検及び評価の結果に基づき報告書を作成し、羽咋市議会に報告するとともに、ホームページ等により市民へ公表する。

2 前項の報告書の様式は、教育長が別に定める。

### (委任)

第7条 この要綱に規定するもののほか、必要な事項は教育長が定める。

### 附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

## II 教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会委員名簿

(令和7年3月31日現在)

教育長	八島和彦	(平成30年4月11日～令和9年4月10日、3期目)
教育長職務代理者	今井和秀	(平成26年7月10日～令和8年10月15日、4期目)
委員	西浦雅人	(令和3年3月19日～令和10年6月30日、2期目)
委員	西和美	(令和3年4月1日～令和7年3月31日、1期目)
委員	出雲香苗	(令和6年4月1日～令和9年12月20日、1期目)

### 2 教育委員会の開催状況

期日	付議案件等
第5回 (令和6年5月27日)	(議決事項) 令和6年度羽咋市一般会計補正予算(教育費)について 羽咋市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 羽咋市体育協会管理運営規則の一部改正について (報告事項) 令和5年度羽咋市一般会計専決補正(3月専決分)(教育費)について 令和5年度「業務委託契約の締結について」の一部変更の報告について 学校評議員の委嘱について 学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 羽咋市立公民館運営審議会委員及び分館運営委員会委員の委嘱について
第6回 (令和6年8月26日)	(議決事項) 中学校教科用図書採択について
第7回 (令和6年8月26日)	(議決事項) 令和6年度羽咋市一般会計補正予算(教育費)について 令和6年度羽咋市一般会計8月専決補正予算(教育費)について 羽咋市立公民館の設置等に関する条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について 公民館長の任命について
第8回 (令和6年11月25日)	(議決事項) 令和6年度羽咋市一般会計補正予算(教育費)について 羽咋市立学校給食共同調理場調理・配送業務委託について 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書(令和5年度事業分)について (報告事項) 休日の部活動の地域移行(試行)について 学校地域連携協議会(羽咋版コミュニティ・スクール)の導入について 放課後児童クラブについて(栗ノ保小・瑞穂小)
第1回 (令和7年2月19日)	(議決事項) 令和7年度羽咋市一般会計予算(教育費)について 令和6年度羽咋市一般会計予算(教育費)について 羽咋市スポーツ推進審議会条例の制定について
第2回 (令和7年3月13日)	(議決事項) 令和7年度羽咋市学校教職員(管理職等)の人事について
第3回 (令和6年3月18日)	(議決事項) 令和7年度羽咋市学校教職員(一般教職員)の人事について
第4回 (令和7年3月24日)	(議決事項) 令和7年度羽咋市教育委員会事務局管理職等の人事について 令和7年度羽咋市教育方針及び主要事業について 公民館長の任命について 羽咋市指定文化財の指定について (報告事項) 羽咋市教育委員会後援等名義使用に関する事務取扱要綱の制定について 羽咋市スポーツ・文化活動事業補助金交付要綱の制定について 羽咋市中学校部活動支援補助金交付要綱の制定について

### 3 その他の主な活動

時 期	各種会議・関係行事等	開催場所及び参加者等
令和6年 4月	教職員辞令交付式 市立小中学校入学式 石川縣市町教育委員会連合会理事会 石川縣市町教育委員会教育長会議	羽咋市役所【教育長】 小学校5校、中学校2校【教育長・教育委員】 金沢市役所【教育長】 地場産業センター【教育長】
5月	石川縣市町教育委員会連合会定期総会 20歳のつどい(令和6年) ※能登半島地震のため 地区社会体育大会(~6月) 教育活性化プラン事業説明会	金沢市教育プラザ富樫【教育長・教育委員】 コスモアイル羽咋【教育長・教育委員】 羽咋市役所【教育長・教育委員】
6月	学校訪問 文化財保護審議会	【教育長・教育委員】 歴史民俗資料館【教育長】
7月	石川縣市町教育委員会連合会理事会 市民スポーツ大会 千里浜ビーチバレーボール大会	金沢市役所【教育長】 羽咋体育館【教育長・教育委員】 すばーく羽咋【教育長】
9月	市立小学校運動会	小学校5校【教育長・教育委員】
10月	石川縣市町教育委員会連合会研究大会 市民駅伝祭	能美市【教育委員】 【教育長・教育委員】
11月	教育委員会事務の点検・評価委員会 石川縣市町教育委員会連合会理事会 石川縣市町教育長研修会 公民館研究集会	羽咋市役所【教育長・評価委員・教育委員】 KKRホテル金沢【教育長】 KKRホテル金沢【教育長】 余喜公民館【教育長・教育委員】
12月	総合教育会議	羽咋市役所【教育長・教育委員】
令和7年 1月	消防出初式 20歳のつどい(令和7年)	羽咋すこやかセンター【教育長】 コスモアイル羽咋【教育長・教育委員】
2月	市教育研究会総会 教育活性化プラン報告会	羽咋市役所【教育長】 羽咋市役所【教育長・教育委員】
3月	市立中学校卒業証書授与式 市立小学校卒業証書授与式	中学校2校【教育長・教育委員】 小学校5校【教育長・教育委員】
通年	羽咋市議会定例会及び臨時会 その他関係方面からの会議・行事出席 依頼による参加	羽咋市議会議場【教育長】

### Ⅲ 点検・評価の結果

#### 1 第6次羽咋市総合計画 基本計画における施策体系

■ 教育委員会所管事業あり

#### 基本計画

共創による「ひと・まちづくり」と新技術による市民サービス向上

#### 基本目標

歴史をつなぎ、文化を育む ひと・まちづくり

美しい自然と環境を守り伝える ひと・まちづくり

希望を持ち、助けあい、活躍できる ひと・まちづくり

多彩な交流と賑わいあふれる ひと・まちづくり

学びと安心を高めあおう ひと・まちづくり

#### 施策の大綱

①歴史と文化の保存と継承、活用
②文化を育む環境づくり
①自然と共生する生活環境の保全
②循環を基調とした持続可能な社会形成
③緑豊かな環境づくり
④安全で信頼される上水道の推進
⑤適正で効率的な下水道の推進
①安心して子育てできる環境づくり
②超高齢社会への対応充実
③障がいのある人への支援
④全世代活躍のまちづくりの推進
⑤社会保障制度の維持・充実
⑥地域医療体制の維持・充実
⑦行政サービスの向上と効率的な行財政運営の推進
①農林水産業の振興
②商工業の振興
③まちなかの都市機能の充実による賑わい創出
④雇用の創出と働きやすい環境づくり
⑤多彩な交流の推進
⑥関係・移住・定住人口の拡大
①学校教育の充実
②次世代を担う青少年の育成
③教養や生きがい、健康維持の土台づくり
④消防力の充実と予防措置
⑤地域防災力の強化
⑥交通安全と防犯意識の向上
⑦快適な道路網の整備と管理
⑧良質な住生活の推進

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策1 歴史と文化の保存と継承、活用	1 文化財の保護・管理	文化財管理事業	文化財課	羽咋市特有の自然・歴史・文化を物語る指定文化財の保護を図る。	<p><b>2, 551千円</b></p> <p>1. 指定文化財の保護</p> <p>①文化財保護審議会の開催 3回                      ②文化財パトロールの実施 3回                      ③市指定・未指定文化財確認の実施 1回                      ④天然記念物の保護                      ・イカリモンハンミョウ生息数調査(5～9月)                      指定地車止めの補修                      ・ホクリクサンショウウオ                      卵塊、生息数、生態調査(12～4月)                      生息地の保護・環境整備(除草)                      ・鹿島路のタブノキ保護事業                      土壌エアレーション等の実施</p> <p>⑤国指定重要文化財「妙成寺山水蒔絵机・料紙笥」保存修復事業補助金 28千円(R5年度の繰越)</p> <p>2. 埋蔵文化財の保護</p> <p>①埋蔵文化財包蔵地の照会 69件                      ②滝古墳群等除草委託 135千円                      ③吉崎・次場弥生公園の管理                      ・園内の美化(除草等)、部分補修                      ・復元建物等施設の管理(開閉・清掃等)                      ④市内遺跡出土資料の整理</p> <p>3. 文化財レスキュー</p> <p>①現地確認 35件                      ②金丸出町曳山の救出作業(済み)                      ③金丸出資料館の民具(未実施)                      ④寄贈民具の整理作業(随時)                      ⑤寄贈古文書史料の整理作業(随時)                      ⑥建造物ドクター事業 3件</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>指定文化財の巡回および定期パトロールを行い、文化財保護に努めている。所有者等との連携も図れている。</p> <p>令和6年能登半島地震によりできなかった重要文化財妙成寺山水蒔絵机・料紙笥(漆工品)の七尾美術館への移送も終えることができた。</p> <p>地震発災直後から市内文化財の被害状況を確認し、修復等が必要な事案には所有者等と協議を行っている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>市内には、修理が必要な文化財建造物等が多く、適切な修理計画及び財政面での調整が必要である。今後も所有者や管理者との連絡を一層高め、適切な保存・管理に向けた速やかな対応に努める。</p> <p>地震により被害を受けた未指定の文化財についてレスキューを行っている。未整理の資料も多く、今後の適切な保存管理が必要である。</p>	<p>定期的な巡回調査を行い、文化財の現状把握に努めるなど、所有者等との連絡・協議を行い、保存管理に努められている。</p> <p>近年は、令和6年能登半島地震や豪雨等、異常気象による激甚災害が多発しており、文化財毀損の可能性も高まっている。関係者との情報共有を行うことにより、緊急時においては、迅速かつ適切な対応をお願いしたい。</p> <p>保存修理が必要とされる建造物については、関係機関と情報を共有し、計画的に対応することが望ましい。</p> <p>また、文化財の活用についても、安全管理に留意しながら進めていただき、より効果的な方法で羽咋の歴史文化を広めてほしい。</p> <p>本市は、県内でも有数の文化財を有しており、適切な保護に加えて、児童生徒や一般の方にもわかりやすく文化財の価値を発信することが、重要な課題であると考えます。</p>

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣 旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価 (成果・課題)	委員評価
施策 1 歴史と文化の保存と継承、活用	2 歴史・文化の調査・研究と継承	文化財調査事業	文化財課	市内の恵まれた文化財群を一体的に保存・活用するため、文化財の現況調査などを実施する。	36,472千円 1. 羽咋市デジタルミュージアム構築事業24,002千円 2. 妙成寺魅力発信事業 597千円 子供向けリーフレット作成 建造物紹介動画作成 3 「羽咋市歴史物語編妙成寺編ジュニアデジタル紙芝居」作成1,650千円 4 妙成寺周辺整備基本構想図等作成業務1,672千円 5. 市史編纂資料・情報収集と整理 ①写真・フィルム・新聞記事資料の整理と目録作成 ②庁内廃棄文書の確認、行政資料の収集・整理 6. 市内遺跡発掘調査等事業 ①県ほ場整備に伴う深江遺跡発掘調査 3,743千円 ②開発に伴う試掘調査 7回 327千円	【成果】 石川県と共同で「妙成寺魅力発信委員会」を組織し、子供向けリーフレットの作成、建造物動画の作成等を行い妙成寺の魅力を発信した。 深江町地内において、圃場整備に伴う発掘調査を実施した。地震の影響から予定面積の半分を終了し、残り半分を来年度以降の予定である。 内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金を活用して、羽咋市デジタル博物館を構築した。 【課題】 文化財の価値を効果的に発信し、地元の誇りとして理解や愛着が深められることが重要である。 また、新たな調査で得られた成果をしっかりと調査・研究し、新たな観光資源として地域の活性化のため、積極的な活用が必要である。 羽咋市デジタル博物館を開発したことによる新たな価値の発信を行ってはいるが、まだまだ十分ではないため、今後も地道に価値の周知に努めたい。	恵まれた文化財群を一体的に保存、活用するための現況調査などを実施している。 妙成寺の価値や各発掘調査の成果は、報告書や説明会の開催などで広く周知していくことが重要である。効果的に周知を行うことにより、地元の宝である文化財の価値を幅広い年齢層で共有し、地域への愛着やつながりをより一層深めることに努めてほしい。その中でも、デジタル博物館を開発したことは評価されるべきものであり、地域の活性化につながるものと期待する。 今後も、調査・研究、整理を行い、まちづくりに活用できるよう、発信力を強化してほしい。 また、妙成寺についても国宝指定へ機運の醸成に向け、より一層取り組んでほしい。
		教育普及事業	文化財課	郷土に関する資料や研究データを活用して歴史民俗資料館や弥生公園を拠点に講座などの事業を展開し、文化財保護や、郷土の歴史・文化の理解を深める。	0千円 ①展示解説の実施 ・常設展等希望者随時(学校,団体,個人) ②主催講座等の開催 ・弥生人講座 27回 476人 ・古文書講座 7回 57人 ・むかしがたり 0回 0人 ・特別講演 2回 24人 ③郷土学習の支援 ・小中学校(市内外) 12件 634人 ・資料の利用(貸出ほか) 12件 ・窓口相談 12件 ・出前講座 8回 延べ411人 ④ボランティアの活動支援 ・活動日数延 515日 ・登録者 7人(活動内容6項目) ⑤図書頒布 38種 ⑥研修室の利用 13回 128人 ⑦文化財レスキュー「下張り文書ワークショップ」 1回 21人	【成果】 令和6年能登半島地震の影響もあるが、昨年まで減少していた見学者やイベント参加者も回復傾向を見せている。 講師派遣依頼や収蔵資料の利用についても一定数の申し込みがあった。電話やメールを含めた相談もあり、展示見学以外での資料館の利活用が、ある程度定着してきている。 【課題】 資料館の利活用の推進には、一般的な展示品の見学以外にも、収蔵資料や情報の適切な管理に努め、市民が日常的に閲覧や文化活動できる空間を提供することが必要である。 羽咋市デジタル博物館においても収蔵資料のデジタルコンテンツ化に取り組み、手軽に活用してもらえるよう、内容を充実させていくことも必要である。 また、ボランティア活動への支援体制の充実も課題である。	関係機関と協力して開催している企画展示やボランティアとの協働による古文書資料の整理、自発的な学習会の開催補助など文化財保護の啓発や歴史文化の学習機会の拡充を実施している。 市民の協力を得ることやボランティアとの関わり方とその支援について、今後も努力してほしい。 市内外の各学校において、社会科学習・古代体験等が行われており、実物資料の見学や体験活動を経て、郷土に愛着を持つ子どもの育成につなげてほしい。 羽咋市デジタル博物館において資料のデジタル化を積極的に行うことは必要であり、今後も継続して取り組んでほしい。 また、デジタル化のノウハウを市民ボランティアに伝承することで、資料のデジタル化を促進し、同時に市民活動の活性化を促すなど、効率的な教育イベントも行っていきたい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
<p>施策1 歴史と文化の保存と継承、活用</p>	<p>3 市民の郷土学習と文化活動の支援</p>	<p>歴史民俗資料館施設運営事業</p>	<p>文化財課</p>	<p>郷土の歴史や文化を継承していくため、市民とともに郷土に関する資料や情報を収集・整理し、保存と活用を図る。</p>	<p>47,444千円</p> <p>入館者数 3,527人 (大人3,063人、高校生以下464人)</p> <p>①資料収集 寄贈 35件/借用 12件 寄託 3件/移管 1件 採集7件</p> <p>②図書類の受入 図書 68冊/館報類 15機関</p> <p>③収蔵資料や展示・保存場所の虫害防除 作業 2回 6月、10月</p> <p>④展示室・収蔵庫の環境調査 1回 11月</p> <p>⑤収蔵資料の点検・整理</p> <p>⑥古文書 電子データ化</p> <p>⑦企画展等 ・夏季企画展 姉妹都市交流展「藤岡市のはにわin羽咋」 会期:7/20～9/8 入館者数:784人 ・秋季企画展「帰ってきた羽咋の宝」 会期:10/22～12/1入館者数:242人</p> <p>【展示協力】 ・冬季企画展「渚の正倉院 氣多大神宮展」 会期:12/20～2/28 入館者数:2,359人 主催:(一社)はくい市観光協会</p> <p>⑧維持管理 ・設備管理、電気保安管理、清掃、警備委託</p> <p>⑨施設改修工事、修繕 ・展示室空調改修工事 3,234千円 ・外壁改修工事 31,735千円</p>	<p>【成果】 5月から通常営業となり、夏季企画展も観客動員数は通常よりも多かったが、それ以上に冬季の企画展の観客動員数は、テレビでの宣伝効果もあり、激増した。 資料の整理については、ボランティアの協力により進んでいる。</p> <p>【課題】 資料館業務の根幹には郷土史の調査・研究があり、その過程で収集された資料を適切に整理し、保存・活用を図ることが重要である。この一連の基礎的な業務については、継続的に行うことが必須である。 資料館は、建設から築41年が経過し、老朽化が激しい。年始の地震による被害は軽微なものであったが、経年劣化による外壁のひび割れと軒下のコンクリートの剥落が多数あり、危険である。また、空調設備の室外機の腐食も激しく、改修工事を令和6年度に行った。 地震発災による文化財レスキュー資料が想定以上に集まり、屋外に仮置きされている物も多い。適切な管理、資料整理の実施が必要である。</p>	<p>郷土の歴史や文化を継承していくための資料収集などを実施し、保存・活用にも活かしている。 ボランティアの協力による資料の整理も進み、展示・講座等で活用していることは良い。今後は資料のデジタル化を進め、公開の方法や周知について検討し、活用につなげてほしい。 市民からの要望も多様化していると思うが、対処の努力を続けてほしい。 施設の老朽化対策については、計画性をもって内部の環境整備も含め実施してほしい。 今後も企画展等の充実や資料館の環境改善と合わせて、収蔵資料の適切な整理・保存と活用に向けて、郷土史の調査・研究に基づく資料収集を継続的に実施してほしい。 震災により増加した資料についても地元の歴史を物語るものであることから、計画的に整理し、この地震で廃棄されてしまう事の無いよう保存管理に努めてほしい。</p>
<p>施策2 文化を支える人材育成と支援</p>	<p>1 文化を育む環境づくり</p>	<p>文化祭開催事業</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>日頃の芸術文化活動の研修成果を公共の場で一同に発表展示し、心豊かな人が育つ文化の香りあふれる場を市民に提供する。</p>	<p>650千円</p> <p>①初夏を彩る文化祭 開催日:令和6年6月13日～16日 参加団体:9、参観者数:1,737人 〔参考R5参加団体:11、参観者数:1,725人〕 会場:コスモアイル羽咋ほか</p> <p>②文化祭 開催日:令和6年11月2日～4日 参加団体:25、参観者数:2,394人 〔参考R5参加団体:24 参観者数:2,416人〕 会場:羽咋体育館・コスモアイル羽咋ほか</p>	<p>【成果】 公民館関係の団体や一般の方に出席を呼びかけたことで、参加団体や展示の充実につながった。 文芸展といけ花展の間のパネルをなくしたことで、動線がスッキリし、互いの展示を行き来する人が多く見られた。</p> <p>【課題】 マンネリ化解消のため、継続して改善を行う必要がある。コロナ禍の間に高齢化や会員・出展数の減少が進んでいるため、継続方法を検討する必要がある。秋の文化祭は、昨年より若い人の入場者が少ないように感じた。多くの人が来場するように子供対象の催しを検討したい。</p>	<p>文化団体の発表機会を持つことで、市民の文化に関する関心を高めることに貢献している。 会場の配置を工夫したり、作品解説の充実や、参観者が体験できる催しを実施するなど、参観者と出展者との交流を深めることで、作品への理解と関心を高め、参観者の増加に努めてほしい。</p>

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣 旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価 (成果・課題)	委員評価
<p>施策2 文化を支える人材育成と支援 文化を育む環境づくり</p>	<p>1 文化を支える人材育成と支援</p>	<p>芸術文化振興事業</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>自衛隊演奏会、スクールシアター等を通じて、市民や小中学生に本格的な芸術鑑賞の場を提供する。</p>	<p><b>813千円</b></p> <p>①第29回自衛隊定期演奏会 開催日 令和6年9月21日 入場料 無料 来場者 一般市民約680人</p> <p>②芸術鑑賞推進事業 開催日 令和6年5月29日 内 容 スクールシアター「一休さん」 対象者 市内小学4～6年生460人(児童・教員含む)</p>	<p>【成果】 生の音楽鑑賞や演劇に触れる機会が少ないことから、毎年好評であり、今回も盛況であった。</p> <p>【課題】 市民から演奏会の年間複数開催を望む声があるが、予算の問題もあり今後の検討課題である。</p>	<p>自衛隊定期演奏会や芸術鑑賞は、市民の音楽文化の醸成や、児童生徒の情操教育充実に寄与している。 毎年、コスモアイル羽咋で継続開催している自衛隊定期演奏会は、好評であり市内外から多くの人が鑑賞している。 今後も幅広い世代の方が、文化・芸術に気軽に触れ親しめる機会を創出するよう努めてほしい。</p>
		<p>折口文学普及推進事業(市民公開講座)</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>折口文学について市民公開講座(講演会)を開催し、郷土にゆかりの深い文学者の市民理解を深める。</p>	<p><b>518千円</b></p> <p>①記念短歌大会 誌上大会として開催 R6応募数:一般の部140首、中学生299首、高校生11首 (参考R5応募数:一般の部121首、中学生181首)</p> <p>②碑めぐりウォーキング 開催日:令和6年6月22日 内容:折口父子に関する歌碑や墓地などを巡るウォーキング 場所:気多大社～折口父子墓周辺 R6参加者数:31名 (参考R5:33名)</p> <p>③折口文学公開講座 開催日:令和6年9月2日～9月3日 内容:折口文学の普及推進 9/2 講演 「池田家資料より 折口信夫三題 谷崎書簡 河童祭 椿・楯(たぶ)」 講師 高岡市万葉歴史館館長 藤原 茂樹氏 9/3 講演 「折口信夫の未完成霊論 一気概の思索 一」 講師 國學院大學名誉教授・大学院客員教授 小川 直之氏 場所:LAKUANAはくい R6参加者数:9/2(50人)9/3(60人)</p>	<p>【成果】 第44回目の短歌大会。例年通り短歌の応募が多数あった。また、折口文学研究をしておられる小川先生をはじめとした講師の先生を招いて講座を開催できた。</p> <p>【課題】 碑めぐりウォーキングや講座の参加者について、若年層の参加が少ない印象。幅広い年齢層へPRし、若年層においても折口文学の学びの機会となるよう取り組む必要がある。</p>	<p>短歌大会は、中高生から一般の方まで、多くの方に応募いただいた。 また、郷土にゆかりの深い折口信夫の講座を開催し、文化の向上に寄与している。 今後は、折口文学へのさらなる理解を促進するため、市保存会や國學院大學と連携し、講師の選定や講座のあり方を検討してほしい。</p>

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策2 文化を育む環境づくり	2 多文化共生の地域づくり	市民外国語講座開催事業	生涯学習課	外国語講座をとおして外国語を話せる人を増やし、市民の国際交流の意識を高める。	0千円 ①ハッピー英会話クラブ (内容) 回数 年間40回 内容 初級～上級 講師 市内在住の英語を母国語とする外国人 参加人数 R6:8人、R5:13人 ②中国語講座 (内容) 回数 年間20回 内容 初級・中級 講師 在日中国人、日中友好協会会員 参加人数 R6:17人、R5:15人	【成果】 市内で外国語講座を気軽に受講できる機会を維持することで、国際交流意識を高めることができた。 【課題】 講座の受講者は社会人が多く、若年層の参加は見られなかった。若年層においても多文化交流の機会となるよう、幅広い年齢層へPRする必要がある。	外国語講座を気軽に受講できる機会を提供することで、外国語に慣れ親しむとともに、国際交流意識を高めている。 今後も、市広報やホームページ、市SNS、地区公民館だより等を活用し、特に若年層の受講者拡大を図ってほしい。
		国際交流推進事業	生涯学習課	市民の国際社会への理解と関心を高めるため、外国人留学生をホストファミリーに受入を行ってほしい、文化の交流を図る。	432千円 ①ジャパンテント(世界留学生交流)日程延長 実施期間 令和6年8月22日～8月25日 参加人数 R6:留学生6人、ホストファミリー3家族 R5:留学生4人、ホストファミリー3家族 ②ふれあいにはんごひろば(宝達志水町共催) 毎月2回日本語サポーターによる外国人に対する日本語指導参加サポーター 11人 参加人数 R6:43人、R5:64人	【成果】 今年度は、3泊4日に日程を延長し開催。3組6名の留学生を受け入れた。ホストファミリーも3組すべてが新規応募者で、文化の交流が図られた。 【課題】 ホストファミリーへの負担も考慮し、平日は行政プログラムを設定したが、ホストファミリーからは、留学生らとの交流時間をもっとほしいとの意見があった。 また、JAPAN TENT開催委員会への負担金大きい。	ジャパンテントでは、外国人留学生を市内の家庭に受け入れてほしい、文化の交流が図られている。 異文化交流に市民が関心を持ち、今後もホストファミリーが固定化しないよう広く周知してほしい。ジャパンテントは事業内容や開催期間の割に、開催委員会への負担金が多いため、開催委員会へ各市町の負担金削減の要望をしてほしい。
施策3 全世代活躍のまちづくりの推進	1 生涯活躍できるまちづくり	コミュニティ助成事業	生涯学習課	地域のコミュニティ活動備品の整備を行い地域活動の充実と強化を図る。	4,700千円 ①中央町 2,200千円 祭礼用具の整備 ②千石町 2,500千円 祭礼用具の整備	【成果】 コミュニティ活動備品・祭礼用具の整備により、地域活動や世代間での交流の促進が図られた。 【課題】 従前からの要望を継続しているため、申込から整備まで数年を要する。助成件数の拡大などを求める必要がある。	祭礼用具などの整備により、助成対象地域で活発なコミュニティ活動が進められている。 今後は、助成を要望している町会が多く、整備までに歳月を要することから、県に対して助成件数の拡大を要望してほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策3	2 男女がともに活躍できるまちづくりの推進	DV対策事業	生涯学習課	配偶者からの暴力に係る通報、相談、保障、自立支援等の体制を整備することにより、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図る。	0千円 ①相談業務(電話・来所) 相談内容により、一時保護が必要な場合は、県女性相談支援センターへ引き継ぐ。 ・羽咋市DV相談ダイヤル(22-7830)6件 ・県DVホットライン(076-221-8740) ②パープルリボンキャンペーンの実施 ・羽咋市役所 ・市立図書館 ・ユーフォリア千里浜	【成果】 DVに係る県の窓口担当者として情報を共有・連携して進めている。 従来の女性支援ダイヤルの名称を改め、DV相談ダイヤルとすることにより、対象者への理解が得られ、必要な相談を受け付けられるようになった。 【課題】 相談内容は専門的な知識、経験が必要とされることが多いので、人事異動がある行政職員ではなく、専門員を配置することが望ましい。	経験豊富な職員が、県の担当者として情報を共有・連携して進めている。 DV相談では、名称を変更することで、DVに特化した相談が受けられるようになった。 DVは深刻な問題であり、一旦発生すれば専門的な知識、経験が必要とされることが多いため、専門員の配置を含め、相談ダイヤルの市民への周知を徹底し、気軽に相談できる体制づくりを進めてほしい。
施策4	1 教育環境の整備・充実 学校教育の充実	小中学校施設維持管理事業	学校教育課	小中学校施設の効率的な維持管理を行い、常に良好な教育環境を保つ。	小) 79,172千円 中) 36,816千円 邑知小屋上防水改修工事 工事請負費 2,860千円 瑞穂小プール行通路改修工事 工事請負費 5,720千円 羽咋中学校防矢ネット改修工事 工事請負費 2,497千円 防災・施設設備等の修繕 水質検査等の定期検査 学校営繕、警備、清掃、電気保安管理、防災空調点検等の委託 光熱水費、会計年度任用職員報酬 ほか 能登半島地震災害復旧費(教育施設) 6,867千円(現年分) 6,140千円(明許繰越分) (内訳) 小中学校施設災害復旧工事(建築) 工事請負費 8,371千円 小中学校施設災害復旧工事(配管・設備) 工事請負費 4,145千円 小中学校施設災害復旧修理 修繕料 491千円	【成果】 邑知小学校屋上防水改修をはじめ、瑞穂小学校プール行通路の改修工事、羽咋中学校防矢ネットの改修などを行った。学校の要望により優先度の高い工事等を実施した。 地震の影響によるものは災害復旧費から支出した。 地震の影響により修理が必要となった各小中学校のひび割れなどの建築工事及び配管・設備の改修工事を実施し、年度内で完了することができた。 【課題】 緊急度の高いものは、学校生活に支障がないよう、資材の高騰や納期の確認等も含め工事期間を調整しながら、早急に取り組む。 学校施設及び設備等の老朽化対策が必要であり、優先順位をつけながら、施設整備に取り組んでいく。	各学校の災害復旧工事は、6年度内に終了出来てよかった。 引き続き施設の老朽化対策及び感染症予防、熱中症対策を継続して行ってほしい。 安全安心を最優先に、良好な教育環境が保たれるよう効率的な運用に留意してほしい。 今後も学校の要望を取り入れるなど、工夫しながら計画的な管理運営を行ってほしい。
		小学校施設整備事業	学校教育課	小学校教育の充実を図るため、小中学校施設の整備・充実を図る。	小) 2,805千円 瑞穂小特別教室空調設備整備工事実施設計 委託料 2,805千円	【成果】 瑞穂小学校特別教室の空調設備整備工事実施設計を行った。 【課題】 今後、他校特別教室の空調整備工事を順次行い、他の施設整備も計画的に取り組んでいく予定。	特別教室の空調設備工事実施設計に取り組み、教育環境の充実が図られている。 今後も、計画的な教育環境の整備に取り組み、安心して学習できる環境づくりに努めてほしい。 また、避難所となる学校施設等の空調整備にも取り組んでほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策4 学校教育の充実 1 教育環境の整備・充実	小中学校運営事業	学校教育課	小中学校に事務的経費を配分し、適正な学校運営の向上と学校教育の充実を図る。	小) 12,016千円 中) 7,450千円  事務用品、電話料、コピー使用料、通知表印刷や賞状印刷、ピアノ調律など必要経費を学校に配分し、学校運営に充てている。 備品については、 羽咋小 ホワイトボード 粟ノ保小 NSマット 瑞穂小 高压洗浄機 西北台小 洗濯機 邑知小 プリンター 羽咋中 弓道場安土幕 邑知中 網戸 など購入	【成果】 物価高騰分を考慮し必要な経費を配分することにより、各校予算の範囲内でやりくりし円滑な学校運営に努めた。 【課題】 事務局・学校で確認しあい、物価高騰分を考慮した学校配分を行う。学校でも複数の見積徴収を行うなど、最少の経費で円滑な運営ができるよう努力が必要である。	必要な経費を学校に配分することにより、各校は計画的に予算の範囲内でやりくりし円滑な学校運営に努めている。 物価高騰など課題も多いと思うが、情報収集しながら効率的に学校教育の充実や経費の節減に努力してほしい。	
	小中学校教材整備事業(理科備品業務を含む)	学校教育課	各小中学校の教育目標や教育内容を充実させるため、教材の補充、更新を実施する。	小) 19,168千円 中) 2,696千円  ①小学校教師用指導書の購入 ②各小中学校にChromebookを購入 ③児童生徒用義務教材(一般教材・電気製品・楽器・体育用品等)を一括購入 羽咋小 電子ミシン 粟ノ保 電子ミシン 瑞穂小 運動会用具 羽咋中 卓球台 など購入	【成果】 一人1台端末を活用し、個別最適な学び、協働的な学びが各学校で行われており、必要に応じた教材の補充ができた。 【課題】 より効果的なデジタル教材が活用できるよう、アプリ等の精査を行うとともに新しい教材の補充時期の決定や活用の準備が必要となる。	デジタル教材の活用が進み、一人1台端末を活用した授業が日常化するなど、教育内容の充実が図られている。 今後も導入している教材等の効果を検証し、より効果的な教材の導入に努めてほしい。	
	小中学校図書館充実事業	学校教育課	全小中学校の図書館に司書等を配置し、児童生徒の読書機会の充実と読書意欲の喚起を図る。	小) 14,653千円 図書館司書(会計年度)3名 図書館事務員(会計年度)2名 図書購入費 1,500千円 消耗品費等 272千円  中) 3,243千円 図書館事務員(会計年度)2名 図書購入費 350千円 消耗品費等 397千円	【成果】 1校に1人図書館事務員を配置しており、児童生徒が気軽に図書室を利用できるよう工夫している。 また、児童生徒が読書に親しむための良質な図書の購入や電子図書の活用、及び図書室を季節ごとに飾りつけを行うなど、図書環境の整備、拡充を行った。 【課題】 紙媒体の図書と電子書籍の両者の長所を掛け合わせて児童生徒により良い読書環境を整備していく。	各校1名の図書館司書・事務員の配置や電子図書の活用など、児童生徒が読書に親しむための取組が進められており、新聞の地鳴りへの投稿などを読むと、読書習慣の成果が出ている。 電子図書と紙媒体の図書との両者の長所を生かし一層の読書の機会を設けてほしい。	

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策4 学校教育の充実	1 教育環境の整備・充実	中学校部活動支援事業	学校教育課	中学校部活動推進のため、各種大会参加費の補助を行うことにより、生徒の健全育成を図る。	<b>4,444千円</b> ①中学校体育連盟補助金 4,249千円 ②中学校吹奏楽コンクール派遣費補助金 75千円 ③報酬(クラブ講師2名) 120千円	<b>【成果】</b> 北信越大会や全国大会への参加費及び遠征費の一部を補助することにより、保護者の負担軽減を図り、部活動を通して、生徒の交流及び団結力が養われた。 <b>【課題】</b> 経費節減のため、今後も移動については、極力市マイクロバスを利用。	毎年、各種大会で上位の成績を収めており喜ばしい。各種大会参加費及び遠征費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、部活動を通して、生徒の身体的、精神的成長が促されるとともに、生徒間の交流及び団結力が養われている。 今後も適正な配分により、継続的に実施してほしい。
		教育活性化プラン支援事業	企画振興室	市内全校で教育活性化プランを作成し、教職員の意識と資質の向上、教育活動の質の向上、地域に開かれた学校づくり等の取組を推進することにより、特色ある学校づくりを進める。	<b>3,000千円</b> ①教育活性化プラン実施計画書の作成(全小中学校(7校)) 教育委員会によるヒアリングの実施(R6.5.30) 報告書の作成及び報告会の開催(R7.2.18) ②学校目標一覧の作成(市のホームページに掲載)	<b>【成果】</b> 「学力向上」「英語教育推進」「Hakuisism Dive推進」について、各校で数値目標を取り入れたプランを作成し、各校で特色ある教育活動が行われた。デジタル教科書やデジタル教材などのICTを活用した授業により、高い学力が維持されている。 <b>【課題】</b> 英語教育推進のために設定した目標達成に向けた取組を具体化する必要がある。 新しい取組について教職員の共通理解を図る一方、教職員の負担増にならないよう学校管理職のマネジメント能力が必要である。	主要教科でのデジタル教科書の導入や「学び方を学ぶ」オリジナルコンテンツの作成、市内学校での共有などのHakuisism Diveの取組により、これまで以上にICTを活用し、個別最適な学びを充実させ、これまで同様高い学力が維持されている。 取組の効果を検証し、教職員や児童生徒の負担を考慮したプランになるように努めてほしい。
	2 学校教育の指導指針の推進	市教育研究会補助事業	企画振興室	教育研究を行う市教育研究会に補助金を交付してその活動を支援し、教育力の向上を図る。	<b>131千円</b> ①教科部会(11部会) ②特別教育部会(7部会) ③体育文化事業(文集、科学研究所、水泳記録会(各学校)、音楽会、読書感想文・感想画)	<b>【成果】</b> 市教育研究会の各教科部会においても新規に導入したデジタル教科書の効果的な活用について授業研究が行われた。特別教育部会(保健、事務)では、業務改善について情報共有が行われ、校務支援システムの効果的な活用につながった。 <b>【課題】</b> 市内で共通した効果的な取組や業務改善についての学校間の情報共有の機会となるよう、引き続き社会の変化や時代の要請に応じた事業の工夫が必要である。	他の市町に先駆けて導入された主要教科のデジタル教科書の効果的な活用について、市内の教職員が情報共有できる機会となっている。 デジタル教科書の活用についての先事例が少ないが、授業実践の積み重ねにより効果的に活用し、授業力の向上に努めてほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣 旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価 (成果・課題)	委員評価
施策4 学校教育の充実	2 学校教育の指導指針の推進	特別支援教育支援員配置事業	学校教育課	特別支援教育支援員を配置することにより、特別な支援を必要とする児童生徒の支援を行う。	小) 39,699千円 中) 7,551千円  小学校5校に16名、中学校2校に3名の学校支援員を配置	【成果】 低学年を中心に支援員を配置することにより、特別な支援を必要とする児童生徒が学級の中で落ち着いて学習に参加することができた。  【課題】 少子化が進行する中であるが、支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、予算及び人員の適正配置が課題である。また、外国籍児童生徒への支援など、これまでになかった支援も必要となっている。	支援員の支援により、学習規律が守られ、落ち着いた環境での授業が行われている。 支援を必要とする児童生徒の増加傾向や多様化に対して、より良い人材確保と適切な人員配置に努められたい。
		小中学校通学援助事業	学校教育課	スクールバス等の運行により、遠距離通学となる児童生徒の通学援助を行う。	小) 11,795千円 中) 17,977千円 遠距離通学する児童生徒のため、小学校は5台のスクールバス(瑞穂小2台、邑知小3台)を運行。羽咋中学校に一ノ宮・上甘田地区、鹿島路地区にスクールバス(3台)を運行(内2台は、西北台小学校上甘田地区の児童の登校用として併用) 羽咋中のスクールバス1台を更新した。	【成果】 児童生徒用の古いスクールバス1台を廃車して羽咋中のスクールバスを1台購入、通学や学校行事等に活用した。  【課題】 スクールバスの運転手の確保とバスの事故防止が課題であり、委託先や委託料なども含めスクールバスの年次計画が必要である。	統合にあわせたスクールバス運行やルートの調整など、遠距離通学をする生徒の保護者の負担軽減に積極的に取り組まれている。 児童生徒の通学時における安全を確保するため、運転手への指導を強化し、スクールバスの適切な管理運営をしてほしい。
		基礎学力向上プラン事業	企画振興室	学力調査の分析結果をもとに児童生徒一人ひとりの学習の問題点を洗い出し、教科毎の弱点を克服するためのきめ細かな指導を行いながら、基礎学力の定着と向上を図る。	1,156千円  ①学力調査の活用 指導法の改善 補充・発展学習の実施 ②学力調査の実施 (小学校:R7.1.9 中学校:R7.1.9~10) 小1~中2で実施 小学校1年~4年 国語・算数 小学校5年~6年 国語・算数・理科・社会 中学校1年~2年 国語・数学・理科・社会・英語	【成果】 学力調査の結果を分析し、児童生徒それぞれの学習の定着状況にあわせた対応ができた。  【課題】 ICTの活用により個別最適な学びを一層充実させ、児童生徒一人ひとりの学力の定着に向けた確実な取組が必要である。	児童一人ひとりの学習の定着状況にあわせた指導により、市全体で高い学力が維持できている。 引き続き、全ての児童生徒を取り残すことがないようICTを活用して、個別最適な学びを推進してほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策4 学校教育の充実	2 学校教育の指導指針の推進	各種研修事業	企画振興室	各種研修会・講座を開催し、学校が組織的に機能するため、教職員の連携を図り、資質を高める。	<b>0千円</b> ①若手教師研修会(R6.8.6、R6.8.20) ②主任研修会(R6.8.2、R7.1.7) ③外国語担当者研修(R6.7.4) ④中堅教師研修(R6.7.29、R6.8.6) ⑤Hakuism DivE推進研修(R6.8.2、R6.12.27) ⑥市教職員研修講座(R6.8.7)	<b>【成果】</b> 役割や経験年数に応じた必要な内容の研修を実施することで、学校の組織力、教員の指導力を高めることにつながっている。Hakuism DivE推進研修により、オリジナルコンテンツ作成のための情報交換や作成したコンテンツの分類・整理ができ、児童生徒にとって活用しやすくなることができた。  <b>【課題】</b> 役割や経験年数に応じて求められる資質能力の向上に向け、今日的課題を取り入れ、研修内容のさらなる充実が必要である。	今日的な課題に対応するための新たな研修が実施されている。今後も、新たな状況に合わせて、研修内容の充実を図ってほしい。
		羽咋市PTA連合会補助事業	企画振興室	市内小中学校PTA相互の連携を図り、家庭と地域の教育力の活性化を推進する。	<b>100千円</b> ①代表委員会(R6.4.13、R6.7.20、R7.2.15) ・第3回代表委員会において、東大セミナーを講師として保護者向け講演会「小中高大で見る伸びる子供の育て方」を実施した。 ②市PTA連合会指定研究協議会(羽咋中 R6.9.22)	<b>【成果】</b> 各校の代表者が意見交換・情報交流を行うとともに、次年度以降の事業計画を見直しができた。今年度から講演会の参加を全保護者を対象として行い、多くの方の参加を得ることができた。事後アンケートでは、満足度が高いことが分かった。  <b>【課題】</b> 社会の動向にあわせ、PTA活動の在り方について、引き続き事業の見直し等改善が必要である。	家庭での教育力を高めるため、保護者向け講演会の対象が全保護者に拡大された点が評価できる。今後も家庭での教育力を高めることをテーマとして継続してほしい。 事業計画の見直しの成果と課題について、検証が必要である。
		いじめ・不登校対策充実事業	企画振興室	規範意識と人への思いやりにあふれた児童・生徒を育てるとともに、いじめや不登校等のない児童生徒が楽しく学べる学校をつくる。	<b>0千円</b> ①いじめ対策 ・いじめを見逃さない学校推進事業を中心の取組 ・アンケートの実施(各学期に1回以上)による実態把握と早期発見 ・いじめ問題対策チームによる早期対応、未然防止対応 ②不登校対策 ・生徒指導主事、生徒指導担当教員を中心とした組織的対応 ・スクールカウンセラーとの連携 ・スクールソーシャルワーカーとの連携 ③適応指導教室の開設 ④巡回適応指導教室の実施	<b>【成果】</b> 児童生徒の観察やアンケートの実施により、いじめや不登校の未然防止、早期発見の取組ができた。適応指導教室に加え、各学校を回る、巡回適応指導教室の実施により、教室に入りにくさがある児童生徒への支援ができた。  <b>【課題】</b> 今後も学校組織として早期発見・早期対応に努めるとともに、児童生徒一人ひとりの困り感に合わせた対応を行う必要がある。	不登校児童生徒が安心して学習したり過ごしたりできる居場所として適応指導教室が適切に運営されている。 いじめ・不登校については、未然防止が重要である。引き続き、学校組織全体で未然防止、早期発見・早期対応に努めてほしい。 特にいじめは、家庭教育のあり方に大きな関わりがあることから、家庭への理解の促進を図ってほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価	
施策4 学校教育の充実	2	学校教育の指導指針の推進	学校評価実施事業	学校教育課	学校運営について、保護者や地域住民の意見を幅広く聴き、開かれた特色ある学校づくりを推進する。	195千円 ①学校運営について目標を設定し、その設定状況を把握・整理して、改善を図る。 ②学校が自己評価や学校関係者評価の実施と結果の説明・公表を行なう。 ③学校設置者等が、評価の結果に応じて必要な措置を講じて、その向上を図る。 ※学校評議員39人	【成果】 自己評価や学校関係者評価を受けることによって、保護者・地域と学校が融和した「開かれた学校づくり」、「特色ある学校づくり」の推進が図れる。 【課題】 適切な評価を行うために、評価方法の見直し(数値化の導入)や必要な情報公開、デジタル化など変化に応じた取り組み内容の周知についても、課題である。 今後羽咋版コミュニティスクールとの調整が必要となってくる。	自己評価や学校関係者評価を受けることにより、地域・保護者・学校が融和した「開かれた学校づくり」「特色ある学校づくり」の推進が図られている。 今後は、取り組みと評価の整合性を図りながら、教育環境の変化に応じてより良い学校づくりを進めてほしい。
	3	英語教育の推進	外国語教育推進事業	学校教育課企画振興室	児童生徒が今後のグローバル社会に対応できるように、ALT(外国語指導助手)の適正な配置に努めるとともに、英語検定の支援、中学生の海外派遣を検討することにより、英語によるコミュニケーション能力の育成及び国際理解の推進に努める。	16,634千円 ①外国語指導助手4名を配置し小中学校へ派遣。 A助手:羽咋小、羽咋中 B助手:粟ノ保小、瑞穂小、羽咋中 C助手:邑知小、邑知中 D助手:西北台小、邑知小 ②英語検定受験料の1/2を、試験の可否に関わらず助成 中学生:年2回分を助成 小学生:年2回分を助成  中学3年の英検3級以上取得率:58.4% 小学6年の英検5級以上取得率:94.5% 小学6年の英検4級以上取得率:41.4%	【成果】 小学校での英検受験料の助成拡大により、小学校6年生において約95%の児童が英検5級以上を取得することができた。 【課題】 中学校からの声として、合格相当の力があっても受験を躊躇する生徒がいるとの話がある。積極的な受験を働きかける必要がある。 中学生海外派遣は能登半島地震の影響により令和6年度も中止した。	小学生の英語の力が確実についてきている。 小中の連携を強化し、中学校でも子ども達の力をさらに伸ばしてほしい。 中学生の英検受験の意欲付けや学習で身に付けたコミュニケーション能力の活用場の確保のために、中学生の海外派遣の実施について検討してほしい。
	4	学校給食の充実	学校給食施設管理運営事業	学校教育課	児童生徒が学校給食を通して望ましい食習慣を養い、心身ともに健康な生活を実践できる力を育み、「食」について正しい理解を深める。	71,679千円 ①給食実施状況(一日あたりの食数) 小学校881食 中学校428食 計1,309食 ②給食食材の地産地消の推進 令和6年度 14品目を使用 ③アレルギー対応食の実施 対応食の内容は原因となる食物を除去 又は代替りのものを提供。 ※令和6年度対象者30人 ④プレート殺菌庫 備品購入費 451千円	【成果】 旬の食材や地場産物を活用し、栄養バランスの良い給食の提供により児童生徒の健やかな成長が図られた。 アレルギー対応食の提供により、保護者の経済的負担の軽減にもつながっている。 食育について、ホームページを活用するなど、食習慣等の大切さの周知にも努めた。 また、プレート殺菌庫を更新した。 【課題】 施設及び設備・調理機器等の老朽化について、計画的に優先順位をつけて、修繕等を実施していく。	旬の食材や地場産物を活用し、栄養バランスの良い給食の提供により児童生徒の健やかな成長が図られた。食育について、ホームページを活用するなど、訪問指導以外にも創意工夫が見られた。 また、地産地消の推進、アレルギー対応食も引き続き継続して実施してほしい。 施設の設備・調理機器等の更新については、財政状況等を勘案しながら効率よく計画的に実施してほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣 旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価 (成果・課題)	委員評価
施策4 学校教育の充実	4 学校給食の充実	学校給食管理事業	学校教育課	市内全児童生徒(区域外から通学している児童生徒を除く)の学校給食費の無償化を行い、子育て支援を図る。	<b>86,868千円</b> ①全児童生徒を対象 ②市外へ区域外通学をしている生徒(6人) 給食費助成額 357千円	<b>【成果】</b> 令和6年度から対象をさらに拡大し、給食費の完全無償化を行った。保護者の経済的負担を軽減し、子育て支援につながった。 <b>【課題】</b> 食材費の高騰や光熱水費の上昇が続き、学校給食運営費が増加しており、国や県へ補助制度の創設を要望していく。	少子化が進む中で、学校給食費の完全無償化は、物価高騰等の影響を受けている子育て世帯の支援策として、大変有効であった。 来年度から委託業者が変更となるが、委託業者への指導を強化し、安全安心な学校給食の提供に努めるとともに、保護者の経済的負担の軽減に努めてほしい。
		青年教育推進事業(青少年の健全育成)	生涯学習課	市内在住及び在勤、在学している青年の活動を推進し、地域社会の発展を図る。	<b>632千円</b> ①二十歳のつどい開催事業 令和7年1月12日 実行委員会の組織 委員10名 実行委員会の開催(7回) 参加者について 参加者数127人、参加率75%(R6年度) 参加者数143人、参加率75%(R5年度) ②青年リーダーの養成 市青年団協議会の活動支援及び連携 青年層のネットワークづくり	<b>【成果】</b> 「成人の手作りによる式典」を趣旨に計画、実施運営支援を行った。式典受付を電子化するなど、新しい運営方法を取り入れた。 <b>【課題】</b> 対象者数の減少とともに、参加率も徐々に減少傾向である。青年層と地域との結びつきをより一層推進する必要がある。	二十歳のつどいを新成人自らの手で企画運営する実行委員会は親睦を深めるだけでなく、若者の地域貢献に係る力を養う機会になっている。 青年団活動を支援し、青年の交流の場を提供するとともに、青年層が地域社会の発展に寄与できる仕組みを整えてほしい。 また、二十歳のつどいでは、対象者が減少しているため、時代に則した新しい運営方法に積極的に取り組んでほしい。
施策5 次世代を担う青少年の育成	1 青少年健全育成活動の推進	少年教育推進事業(青少年の健全育成)	生涯学習課	子ども会活動の支援、各種少年対象事業の実施により少年の文化・スポーツの向上と心身ともに健康な少年を育成する。	<b>75千円</b> ①子ども会育成会活動事業 (1)文化事業3回 親子田植え体験 29人参加 親子稲刈り体験 29人参加 VPSドローン体験 18人参加 (2)教育事業3回 天然岩ガキとふれあおう 19人参加 出張！冬休み宿題お助けDAY 30人参加 正しい睡眠講座 9人参加 ②少年少女発明クラブ運営費補助事業(年12回) 参加人数 R6:31人、R5:32人	<b>【成果】</b> 今年度は6回の事業を実施し、完全新規の事業を4つ企画した。中でも田植え体験や岩ガキとふれあおうの事業は好評であった。 <b>【課題】</b> 事業開催には育成会役員の協力が必要不可欠であり、事業規模が大きくなりすぎないように検討する必要がある。	昨年に引き続き、文化系及び教育系の事業を多く開催するとともに、新規事業を企画するなど工夫が見られた。 今後は、より一層地域間の連携強化を図りながら事業を実施、少年育成に関わる指導者の養成、発掘に力を入れてほしい。 また、子供の体力低下やスポーツ離れが問題視される中、スポーツの持つ教育的価値に鑑みて、スポーツ事業の復活を検討してほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策5 次世代を担う青少年の育成	2 家庭教育の健全化	家庭教育推進事業	生涯学習課	市民憲章実践活動の一環として、市民ぐるみで、家庭における教育力の高揚を図り、青少年の健全育成を推進する。	<b>3,392千円</b> 家庭教育推進協議会 ①家庭教育支援部会 家庭教育情報紙第1号及び第2号の発行(3,000部) CAP講演会を市内3保育所(園)で開催 ②乳幼児部会 親子ふれあいアルバム、羽咋市ふれあい読書、子育て標語 ③児童部会 家族川柳、羽咋市ふれあい読書、家族ふれあいカード ④生徒部会 家族川柳、家族ふれあいカード、挨拶運動及び啓発ポケットティッシュ配布 ⑤少年育成部会 巡回活動(10回)、挨拶運動及び啓発ポケットティッシュ配布(8回)、サイバー巡回(70回)、羽咋郡・市ブロック会議へ参加(宝達志水町開催)	<b>【成果】</b> 「家庭教育情報紙」の発行など各事業により「家庭教育推進協議会」の活動内容の浸透が図られ、また家族のふれあいを深めることができた。 地域と連携して、青少年の健全育成を図り、また非行防止に努めた。 事業の募集を紙媒体だけでなく、電子申請システムでも受け付けた。 <b>【課題】</b> 今後も、子どもの発達段階にあわせた「親子のふれあい事業」などを通じて、家庭教育の充実を図っていききたい。 非行行為に対する情報を共有し、学校や地域間との協力体制を構築することが必要である。 SNSを通したトラブルが発生しないよう取り組んでいく。	「家庭教育情報紙」の発行など各事業により「家庭教育推進協議会」の活動内容の浸透が図られている。 今後も、子どもの発達段階にあわせた「親子のふれあい事業」などを通じて、家庭教育の充実を図ってほしい。 青少年の健全育成及び非行防止に成果が見られる。 今後は、情報を共有し、学校や地域間との協力体制を構築しながら、健やかな家庭づくりと、健全な社会づくりに努めてほしい。 時代の流れに合わせて、事業募集の範囲を広めることができている。今後も必要に応じて変更していってほしい。 SNSで起こるトラブルを防ぐよう、対応策の理解の促進を図る必要がある。
				各種教室、講座やスポーツ活動を幅広く開催し、生涯学習の推進と健康で心豊かな生活づくりを進める。	<b>3,957千円</b> 各種活動やイベントを実施。 能登半島地震の影響により、粟ノ保公民館は粟ノ保放課後児童クラブの建物の一部を間借りして公民館活動を実施することになった。 R6年度 主な行事等 ・各地区社会体育大会 ・各地区町民文化祭 ・スマートフォン教室(各公民館2～3回開催) スマートフォン教室参加者数 225人(LAKUNAはくいで参加者数を除く)	<b>【成果】</b> 各種活動やイベントを行うことができた。また、能登半島地震の影響により、粟ノ保公民館の公民館活動が一部制限されたが、近隣施設を利用し活動できた。 各公民館においてスマートフォン教室を開催し、主に中・高齢者への理解の促進が図られた。 <b>【課題】</b> 能登半島地震の影響により、粟ノ保公民館の公民館活動が一部制限されることになっているため、令和7年度は公民館活動が制限なく利用できるように改善していく。 情報機器の活用が欠かせないものとなっており、デジタルデバイドを解消するための教室の開催を拡充するなど、市民が求める教室や講座を開催する必要がある。	コロナ禍及び震災の教訓から、防災や地域コミュニティの拠点として、公民館機能の重要性が増している中、各種活動やイベントを実施し、生涯学習の推進を図っている。 各公民館で活動やイベントが実施できているとのことだが、粟ノ保公民館は震災の影響により、活動に制限がされているとのことなので、制限なく公民館活動が実施できるように改善してほしい。 地域コミュニティの維持や発展には地域住民の交流が重要である。 世代を超えて交流できる事業やイベントの実施と、特に高齢者の情報技術活用に役立つ講座の開催など、持続可能な地域づくりに資する事業を引き続き推進してほしい。
施策6 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	1 公民館活動の充実	公民館活動事業	生涯学習課				

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策6 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	2 生涯・競技スポーツの推進	生涯スポーツ活動事業	スポーツ推進室	生涯スポーツの普及振興を図る。	<b>288千円</b> ①各種大会 新体力テスト記録会の実施 ニュースポーツ大会の実施 ソフトバレーボール大会の実施 健康クラブのスポーツ大会は中止  ②50日運動 県の302運動(1日30分以上の運動を週2回以上)と併せてスポーツ活動を奨励 ③スポーツ少年団指導者謝金 スポーツ人口の拡大のため、指導者への謝金の交付 ④スポーツ用具 ドッチビーの購入	<b>【成果】</b> 50日・302運動は健康福祉課との連携を図っている。50日運動を達成した市民に、県事業の302運動を勧めてスポーツの継続を促している。  <b>【課題】</b> 年齢層や地域性にこだわらず、幅広く、ニュースポーツの普及を図るとともに、地震からの復興における開催の工夫が必要である。	震災の影響はあったが、概ねの事業が実施でき生涯スポーツの普及が図られた。 各種スポーツ協会などが講習や大会などを開催できるように支援したり、年齢層や地域性にこだわらず、幅広く生涯スポーツ及びニュースポーツの普及を図ることで、スポーツを通じて健康寿命の延伸につながる工夫を継続して行ってほしい。
		スポーツ団体運営支援事業	スポーツ推進室	ビーチバレーボール大会等の継続開催とスポーツ協会やスポーツ少年団の運営支援を行い、競技力の向上と底辺拡大を図る。	<b>3,800千円</b> ①ビーチバレーボール大会開催補助 開催日令和6年7月20日、21日 参加チーム数 一般31、高校生18 中学生28、ミックス7、ママさん4  ②スポーツ協会運営費補助 県体派遣、スポーツ少年団運営費 種目協会30、地区協会10  ③峨山道トレイルランは中止	<b>【成果】</b> ビーチバレーボール大会を開催することができ、技術の向上及び選手交流を図ることができた。  <b>【課題】</b> スポーツ協会の運営については少子高齢化の影響で、加盟団体の弱小化がある。 峨山道トレイルランは地震の影響でコースが崩落するなど開催が難しい状況なので、輪島市などと廃止も含めた協議が必要。	ビーチバレーボール大会は震災の影響もなく、県内外から多くのチームが参加し開催できた。 スポーツ協会やスポーツ少年団はスポーツ振興の中心的存在ではあるが、少子高齢化により加盟団体の弱体化に対応する必要がある。 峨山道トレイルランは能登半島地震の影響で今後の再開が難しい状況のようだが、どうすべきか輪島市などと協議してもらいたい。
		市民スポーツ大会開催事業	スポーツ推進室	広く市民に体育・スポーツを普及し、スポーツ精神を高揚するとともに健康の保持増進を図る。	<b>1,079千円</b>  開催日 令和6年7月7日 参加人数 約1,100人 種目数 17種目 県内で少なくなった地区対抗で競技を競ったが、地区対抗の総合成績は廃止した。	<b>【成果】</b> 選手集めに苦労した競技もあったが、地区の努力により開催することができた。地域活性化の一助を担っている。  <b>【課題】</b> 地区によっては不参加競技の種目が多く、対策が必要である。各公民館は選手集めに苦労している。	本大会は県内では少なくなった地区対抗方式であり、地域の活性化やコミュニケーションが図られるとともに、総合成績を廃止し、小規模地域への配慮が見られた。 一方、地区によっては不参加競技の種目が多いため、選手が参加しやすくなるように、大会要項や競技内容などを検討してほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価
施策6 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	2 生涯・競技スポーツの推進	市民駅伝祭開催事業	スポーツ推進室	国民の祝日である「スポーツの日」に健脚を競い、体力の向上と健康の保持増進、地区・団体の団結力の強化に努める。	194千円 開催日 令和6年10月14日 参加数 地区対抗(6名×10地区) グループ対抗(4名×12チーム) コース 羽咋運動公園周辺約2.1キロ	【成果】 地区対抗及びグループ対抗を実施し、ランニングを通じて体力の向上と健康の保持増進ができた。  【課題】 地区対抗の参加地区が減少しているため、今後の事業の在り方を検討する必要がある。また、以前に小学生対抗もあったが、少子化により困難な状況となっている。	ランニングを通じて、市民の健康に寄与するとともに、地域やグループの団結力が高まっている。 地区対抗の部では、選手集めに各公民館は苦勞していると聞いているが、開催要項の見直しなどを行い、各地区が参加しやすいように工夫を重ねてほしい。 伝統ある行事なので、続けてもらいたい。
		各種スポーツ大会参加運営支援事業	スポーツ推進室	各種大会の参加支援を行う。また、地元スポーツ大会開催の支援を行う。	1,673千円 ①各種スポーツ大会に参加する派遣費の支援 ②地元開催のスポーツ大会の運営支援 市民ゴルフ大会 唐戸山相撲場の整備費 ③県相撲連盟年会費・大会補助金	【成果】 各種大会の支援・参加と運営補助を図った。唐戸山相撲場を利用する相撲大会は、伝統があり継続するに値する。  【課題】 現在、大会参加補助金の問い合わせが多いため、申請者が負担にならず、かつ、わかりやすい要綱改正が必要である。	唐戸山相撲場での相撲大会は、伝統があり継続するに値する。各種大会の参加支援もスポーツ振興につながっている。 派遣費の支援は、競技力の向上・青少年の健全育成等につながるため、継続してほしい。 全国大会に出場する選手の負担が少しでも減るように、要綱改正の検討や、予算措置を行っていただきたい。
	3 施設の整備・維持管理	公民館運営事業	生涯学習課	地域の生涯学習拠点として、効果的な公民館施設の運営維持管理を行う。	51,411千円 ①公民館施設の維持管理にかかる委託業務 ②運営に必要な事務消耗品等の購入 ③通信費や保険料 ④施設の修繕 ⑤公民館用地の賃借料 ⑥大会参加費や負担金等 ⑦富永公民館玄関ポーチ設置及び大ホール床張替工事 ⑧千里浜公民館排煙窓オペレーター取替工事  能登半島地震災害復旧事業 5,577千円  ⑨神子原公民館浄化槽設置工事 ⑩上甘田公民館ホール壁クロス修繕工事  老朽化した設備の補修や震災における修繕工事を行った。	【成果】 地域住民が快適に利用できるよう効果的な運営や維持管理を行うとともに、震災からの復旧修繕を行った。  【課題】 施設の老朽化が著しい公民館が複数あることから、本市公共施設個別施設計画に基づきながら、計画的に施設改修を行う必要がある。 また、震災を受け、引き続き公民館の復旧を進めていくとともに、防災施設としての機能強化を図る必要がある。	生涯学習の拠点として、利便性が高く快適に利用できる運営がなされている。 今後も緊急性、社会的要請、費用対効果などを考慮しながら優先順位をつけて、公民館の整備と復旧を進めてほしい。 また、避難所施設や地域の防災拠点としての機能強化も図りつつ、ハード面だけではなく、ソフト面でも、地域が望む利用方法に柔軟に対応するなど、施設の利活用を推進することで、多くの人が集い、社会教育と地域コミュニティが併せて発展し、持続可能な地域づくりへとつなげてほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価(成果・課題)	委員評価	
施策6 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	3	施設の整備・維持管理	余喜地域振興拠点整備事業	生涯学習課	旧余喜小学校を活用し、公民館をはじめとした地域コミュニティの拠点施設とする。	<p><b>36,024千円</b></p> <p>①R4に小学校を活用した地域拠点づくりのワークショップを地域住民と行政が協働で開催し、旧余喜小学校及び周辺施設活用構想を策定した。</p> <p>②公民館の所在地変更の条例改正、令和5年7月に公民館機能の一部移転。</p> <p>③R5に余喜地区まちづくり連絡協議会発足(地域交流、子育て教育、安心安全部会) 地域アンケートを実施。(市地域振興室と連携)</p> <p>④余喜全員アンケート報告会・ワークショップ開催 地域行事、組織の棚卸し・集約・リニューアルを図った。(市まちづくり課と連携)</p> <p>⑤公民館への用途変更工事完了。駐車場整備も実施。</p> <p>⑥よき交流センターオープニングセレモニー開催。 工事請負費34,644千円 ・旧余喜小学校体育館Wi-Fi増設工事187千円 ・余喜公民館体育館外部トイレ配管改修工事495千円 ・新余喜公民館整備工事(電気設備)10,102千円 ・新余喜公民館整備工事(建築)13,610千円 ・余喜公民館駐車場舗装工事4,620千円 ほか</p>	<p><b>【成果】</b> 旧余喜小跡地の活用策として、公民館機能の移転を完了させ、よき交流センターを開設した。また、駐車場を整備する等、地域住民が快適に利用できるように改修を進めた。 震災による施設の復旧工事も行った。 余喜地域の活性化を図るため、集落支援員の配置に向けて準備を進めた。</p> <p><b>【課題】</b> 余喜地区まちづくり連絡協議会と連携し、地元の意向を反映しながら余喜公民館の整備や周辺施設の有効活用を図る必要がある。 また、防災施設としての機能強化を図る必要がある。</p>	旧余喜小学校への公民館機能移転を地域住民と行政が協働で完了させたことは評価できる。 今後は、地域の交流拠点施設、また、防災拠点としての整備を進めるとともに、余喜地区まちづくり連絡協議会と協働しながら、周辺施設及びよき交流センターの有効活用を図ってほしい。 また、集落支援員を活用し、余喜地域の活性化を積極的に図ってほしい。
			コスモアイル羽咋運営事業	生涯学習課	市民の生涯学習拠点施設として、効率的、効果的な運営維持管理を行う。	<p><b>68,897千円(内訳)</b>  <b>52,558千円(指定管理料)</b>  <b>16,339千円(工事など)</b></p> <p>①指定管理者(有)プロジェクトゥ                      期間:令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)                      指定管理者に運営管理を委託し、効果的な運営と利用時間等で住民の便宜を考慮した業務がなされるよう注意している。</p> <p>②市負担による工事・修繕                      非常用放送システム更新工事、スプリンクラー修繕などを行い、消防設備の大規模改修に向けて設備の更新工事を今後も行っていく。</p> <p>③サービス向上                      ・電子決済の導入                      ・デジタル障害手帳の導入</p> <p>④広報活動                      ・SNSによる広報コンテンツの充実</p> <p>⑤修繕                      ・小便器の自動水栓機の更新                      ・大ホールのマイクアンテナの更新</p>	<p><b>【成果】</b> 地震の影響で減少した来館者、利用者数が戻りつつある。工夫をしながら、市民サービスへの維持、向上に取り組みを図った。</p> <p><b>【課題】</b> 建物および設備の老朽化が顕著である。大規模改修を視野に入れた、施設運営が必要である。地域整備課と協議して進めていく。</p>	指定管理者制度導入による経費削減効果が見られる。 地震の影響で観光客の減少がみられる。団体客はまだ回復は難しいが、個人客は回復しつつある。 今後も、指定管理者と協働し、独自のアイデアでサービス向上を目指してほしい。 また、施設改修についてコスモアイル羽咋設備長寿命化計画を基に計画的に進めてほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣 旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価 (成果・課題)	委員評価
施策6 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	3 施設の整備・維持管理	図書館運営事業	生涯学習課	市民の施設として、安全、安心な施設維持と利用者の希望に沿った図書の充実を図る。	<p>26,878千円 (内訳) 23,958千円(指定管理料) 2,904千円(図書システム料) 16千円(負担金)</p> <p>①指定管理者(有)プロジェクトゥ 期間:令和4年4月1日～ 令和9年3月31日(5年間) 指定管理者に運営管理を委託し、効果的な運営と利用時間等で住民の便宜を考慮した業務がなされるよう注意した。</p> <p>②サービス向上 ・ドリンク可能スペースの設置 ・フリーWi-Fi環境の構築 ・企画展の実施(毎月) ・子ども図書館の実施(毎週木・土) ・コミックコーナーの設置 ・イベントの開催 おはなし会、映画上映会、こども読書週間など</p> <p>③自主事業 ・読書ボランティアの支援 ・読書スタンプラリー ・雑誌のリサイクル ・ボードゲームコーナーの設置 ・キッズスペースの設置(お盆休み)</p>	<p>【成果】 月ごとの企画展や子ども向けの事業を開催するなど、指定管理者による利用者促進事業の展開が見られる。 夏休みなどの中高校生の利用者の一部がLAKUNAはくいに流れている。 制度導入による効果は認められる。</p> <p>【課題】 今後もサービスの低下等の苦情が出ないように注意を続ける。</p>	指定管理者制度導入により、サービスの向上と経費節減効果が見られる。 ドリンク可能スペースの設置など新たな取組も見られ、今後も指定管理者と協働し、独自企画に力を入れ、市民の読書習慣の向上に寄与してほしい。
		体育施設整備事業	スポーツ推進室	安心して利用できる体育施設の整備を図る。	<p>35,001千円</p> <p>工事名 羽咋体育館床・バスケットボールゴール改修工事 羽咋体育館北側トイレ配管改修工事 羽咋体育館駐車場区画線設置工事など</p>	<p>【成果】 安心・安全に利用できる施設整備を行った。</p> <p>【課題】 今後も、利用者の利便性を考慮した運営を行う。</p>	老朽化が進む施設が多い中、計画的に整備を行っている。 今後も安全・安心に利用できる施設整備の推進を図り、利用者の利便性の向上に努めてほしい。
		体育施設維持管理事業	スポーツ推進室	効率的な体育施設の維持管理を行い、サービスの向上を図る。	<p>49,720千円</p> <p>①需要費等【11施設】 建物共済、用地賃借料、施設協会負担金 電気・ガス・上下水道料</p> <p>②委託料【11施設】 日直夜間警備・掃除・設備・維持管理事業</p> <p>③工事 羽咋体育館駐車場補修工事 武道館トップライト袴板金取替工事 テニスコート屋外時計設置工事など</p>	<p>【成果】 限られた予算内で、低コストな運営と危険度、必要性の高いものを順次、更新している。</p> <p>【課題】 今後、体育施設の指定管理者として「バモスはくい」やその他の民間企業の参画も検討が必要である。</p>	効率的で低コスト運営と市民サービスの向上が図られている。 今後は、他自治体の先進事例も参考にし、指定管理者制度の導入も視野に入れながら、効率的な体育施設の維持管理方法を検討してほしい。

◎令和6年度 羽咋市教育委員会点検・評価シート

大項目	中項目	事業名	担当課(室)	趣 旨	決算額・事業内容・実施状況等	事務局の自己評価 (成果・課題)	委員評価
施策6 教養や生きがい、健康維持の土台づくり	3 施設の整備・維持管理	ユーフォリア千里浜管理運営事業	スポーツ推進室	温泉保養施設を設置し、市民の健康増進及び体力の向上を図る。	<b>120,553千円</b> ①指定管理者(有)プロジェクトドゥ 期間:令和6年4月1日～ 令和11年3月31日(5年間) ②利用者数 浴場、プール、スイミング教室等で年間213,828人が利用。 ③工事 外湯目隠しフェンスほか改修工事 井戸更新工事 駐車場及びアプローチ照明改修工事 適温水補給ユニット更新工事 男女脱衣場トイレ改修工事 など	<b>【成果】</b> 指定管理者制度を導入しており、令和元年度から現在の指定管理者が運営している。民間のノウハウを活用し、施設の維持管理及びサービスの質の向上が図られた。 <b>【課題】</b> 施設が老朽化しており、緊急の修繕が多いため、優先順位を定め計画的な修繕が必要である。	指定管理者制度導入によりサービスの質の向上と経費の削減が図られている。 施設設備については、老朽化対策に苦慮しているようだが、優先順位をつけ計画的に修繕を進めてほしい。 今後も、適切な管理運営と更なるサービスの質の向上を図り、利用者の確保に努めてほしい。